

## 令和3年度大野市スポーツ推進計画策定委員会（第2回会議録）

- 日時 令和3年9月29日（水）午後7時～8時45分  
※午後7時～8時 健康おおの21と合同開催
- 会場 結とびあ305. 306号室

### 1 健幸福祉部長あいさつ

### 2 合同策定委員会

#### (1)両委員長あいさつ

#### (2)「大野市スポーツ推進計画」について（スポーツ推進課説明）

平成16年2月に「大野市スポーツ振興計画」を策定しスポーツ施策を進めてきました。

この成果を踏まえ、平成24年3月に「大野市スポーツ推進計画」を策定し、ご覧の3つの「①生涯スポーツ社会の実現に向けたスポーツ環境の整備充実方策」「②レベルの高い競技者を育成するための方策」「③生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進するための方策」を主要な課題としてきました。

「成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人（50%）になること」を目標としてきましたが、平成28年度と令和2年度のアンケート調査での結果では、男性は6.5ポイント上昇し41.9%で、女性は1.0ポイントの上昇となり、39.5%、全体では40.6%と3.4ポイント伸びてきており、これまでの取組の成果が一定程度現れていると言えます。続いて、3ページ下部～4ページ上欄をご覧ください。

本計画におけるスポーツとは、スポーツを通常より幅広い概念で捉え、ルールに基づいて競う運動競技だけではなく、健康づくりのための体操や気分転換に行う散歩、自然に親しむ野外活動、介護予防のためのトレーニングなど自発的に楽しむ身体活動、またスポーツを「みる」「ささえる」といった活動も含めて全てをスポーツと捉えています。6ページをお願いします。

第3章 策定の方向性と基本目標ですが、3策定の方向性 としましては、本計画では、第六次大野市総合計画で市が目指す将来像、「人がつながり地域がつながる 住み

続けたい結のまち」実現のため、定めた4点の方向性の中で、2番目の「スポーツを通じた健康の増進を図ります」をあげています。

また、2めざすべき姿では、「市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康の増進と競技力の向上が図られ、豊かで充実した生活を送るまち」を掲げております。つづいて7ページ下欄から8ページをお願いします。

4 基本目標のうち、4つある基本目標のうち、基本目標2において、「スポーツを通じた健康の増進」をあげています。

市民が生涯を通じて健康的に日常生活を送るために、身体を動かす機会づくりや、スポーツの効果や有効性についての情報発信を推進します。また、スポーツと健康づくりをともにできる活動の充実を図りますとしております。

この具体的な策としまして、第4章 施策の展開、1 基本目標ごとの施策と取組みになりますが、12ページ、13ページに示してあります。

施策(1) 健康づくりのための運動・スポーツの推進として、ヘルスウォーキングプログラムの実施や、自転車の利用促進、ラジオ体操の普及などをあげております。

施策(2) スポーツと健康づくり活動の連携としては、健康長寿課や農業林業振興課と連携を図り、具体的にはフレイル防止に向けた取り組みや、市民が生涯にわたり健康と体力を維持できる能力を獲得するための食育を推進ということをあげております。これらを推進してスポーツを通じた健康づくり活動の充実を図ります。

以上、簡単ではございますがスポーツ推進計画策定委員会事務局からの説明は以上です。

【委員長】1点補足させていただきますと、12ページが深く密接にかかわっている。基本目標2 スポーツを通じた健康の増進についてご意見をいただきたい。

(3) 「第4次 健幸おおの21」について

健康長寿課 説明

(4) 意見交換 (30分程度)

【委員長】活動の整合性がとれているかご意見伺いたい。

【委員長】片や運動するような機能、身体活動、片やスポーツ運動。これらを同じスポーツとしてとらえてくださいと言っているが、介護予防のフレイルに取り組むのもスポーツといわれると、なかなかそうですね、とは言いにくい。

【事務局】たしかに以前のスポーツといえば、技術の向上とか体力の増進という形でスポ

ーツに親しむというのが多かった。最近の傾向では、伸ばしていくのと維持していく部分、回復していく部分を含めての身体活動、「みる」、「ささえる」というような自分がやらなくても応援する、裏から支えるということもスポーツとしてとらえる新しい概念がある。そのためこの中で、最初にしっかりスポーツの定義をさせていただいたので、読まれた方にも誤解があるようでしたらしっかり説明をさせていただきたいと思う。

【委員長】「健幸おおの21」の資料5にある週1回以上運動する人を増やすについて、令和8年度の目標値が45%になっているが、スポーツ推進計画の目標数値にあてはめた時に、計画期間がそれぞれ5年と10年のスパンがあるために5%の伸びがあるとした考え方でよろしいか。

【事務局】「スポーツ推進計画」においては、10年間のうち毎年2%ずつ伸びていったとすると5年後にだいたいそりくらいに届くとしている。目標値に関しては、5年後と10年後の数字の差である。3次計画の目標値については22年度の実績、27年度の実績をみてみてもなかなか45%という数字は希望的観測との部分もある。3次計画と4次計画の目標値は変わっていない。達成できなかったということから、変わっていないというところもある。

【委員長】50%目標とするのは、しんどいものか。

【事務局】「スポーツ推進計画」の方で50%を目標としてあげたのは、前回も50%でクリアしていないからである。それに先立って県スポーツ推進計画ではもう少し県民の目標が高く設定されていて平成30年で58%だったが、目標クリアされていないため、R6までで65%を目標としている。実際、大野市も県に併せて高くしないといけなかつたかと思つたが、目標達成が難しくても50%を設定させていただいた。

【委員】スポーツの考え方。楽しむ、「みる」を含めてスポーツをしているとすれば、目標率も上がってくるのでは。ウォーキングも入れるとかわるのでは。

【事務局】次回アンケートとる際にその辺の観点をしっかり説明しながら実施したい。

【委員】アンケートをとる際、スポーツについては競技目的と、健康目的に対象を分けながら考えた方がよいのでは。

【事務局】そういった観点で基本目標でスポーツを通じた健康の増進と、トップを目指すような競技と、スポーツを通じた健康、それから大きい観点で、いろんな方がスポーツを楽しむ、障がいを持つ方、大人子ども、スポーツする人を拡大していく目的で設定している。参画人口の拡大については、全部含んでいるが、そういった内容で基本目標を4つに分けて設定している。

【事務局】資料5の(P1)(2)においては、ほとんど運動しない人も割合を新たに設定

した。運動と身体活動を分けて考えているのでは、

【委員】目標は高く持てばよいと思う。運動を何もしていない人の掘り起こしをしていき、これを入れて目標を高く持つようにすれば良い。

【委員】10年後だと、小学生から高校生に、高校生は大人になる。小・中学生でも分かりやすく意識づけさせたいので、図などで示すことで概念を分かりやすくしてほしい。裾野を広げることに繋がる。

【委員長】10年後に運動、競争で子どもたちがやめていかないような表現も入れていきたい。

### 3 個別策定委員会（会場移動）

【委員長】身体活動とスポーツのギャップが出てきている。

【事務局】計画ができたなら、普及のために説明していく必要がある。アンケートの取り方についてもスポーツの概念をどこまで広げるか。散歩はOKかどうかなどについて。またこの計画の中ではSDGs、Fユナイテッド包括連携協定も加えたい。

【委員】身体活動について調べてみた。掃除機かけは軽い運動とされている。身体活動の考え方に興味を持つと良い。

【事務局】P12のスポーツ情報の提供として対応したい。

【委員】「みる」「ささえる」部分をもっと入れてほしい。

【委員】P8。基本の柱のスポーツ参画人口の拡大。4つが並列になっているのがミスマッチ。

【委員長】去年も議論になったが、結局4つの並列となった。

【事務局】4つの健康とスポーツ。第一の目標については底辺の拡大である。

【委員】図示できると良い。

【事務局】しっかりと広報してることが大事なので、図示できるよう考えたい。

【委員】健康の施策と、「みる」「ささえる」の認識について。パブコメの時。指摘を受けられる可能性がある。

【委員】スポーツ庁にある表現だが、「日常生活の中にスポーツを取り入れましょう」すごくいい表現である。うまく入れられると良い。

【事務局】本日頂いた意見を基に案を修正し、結果を委員長とすり合わせ、次回委員会へかけたい。時期は10月下旬～11月上旬。11月中に修正し、パブコメにむけたい。

閉会あいさつ（副委員長）